



すべての子どもたちが「生きる力を育む、未来の遊び場」

設置 山形市 こども未来課
運営 株式会社 夢の公園
 ☎ (023) 676-9876 FAX (023) 676-9878

所在地
 ・山形県山形市大字片谷地580-1
アクセス
 ・山形駅西口から車で約20分

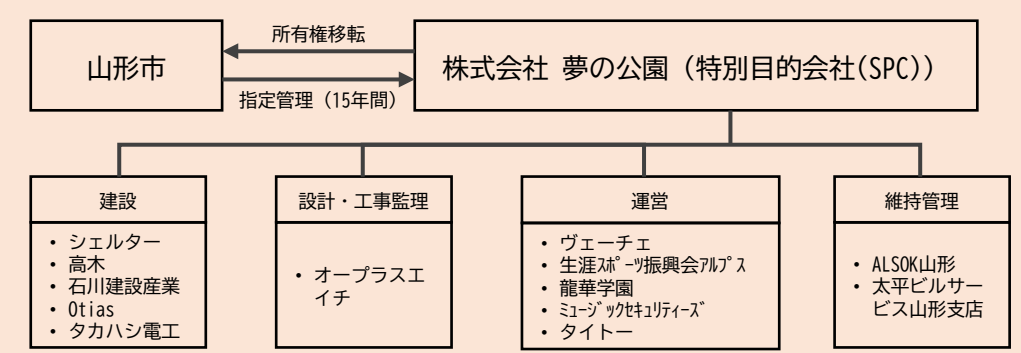
DATA

- 竣工
 - ・2022年
- 規模
 - ・延床面積 3175.90 m²
- 総事業費
 - ・約38億5千万円
 - －厚生労働省次世代育成支援対策施設整備交付金 (869万円)

■主な設備



■体制図
・PFI-BT0方式



構想・計画 設計・建設 管理・運営

○屋内型の新しい子育て支援拠点

- 雪の多い冬も遊べ、子育て相談や保護者同士の交流ができる施設
- ・山形市の重点施策として、「子育てしやすい環境の整備」が掲げられ、市北部に、児童遊戯施設が作られた結果、市南部にも同様の施設ニーズが高まった。
- ・また、雨天時や冬期間に子ども達が遊べる屋内施設が少なかったことから、子育て中の保護者から、「子どもが安全にのびのびと遊べ、子育てについての相談や、保護者が交流できる機能をもつ児童遊戯施設」に対する多くの要望を受け、以下コンセプトで施設を計画。

- 障がいの有無や、人種、言語、家庭環境に関わらず、多様な個性や背景を持った全ての子どもたちの遊びと学びの場
- ①誰もが使える空間の創出
 - ②安全な空間の確保
 - ③自由な遊びの創出
 - ④子育て支援の充実
 - ⑤地域や教育機関との連携
 - ⑥地域への開放
 - ⑦気軽に利用できる施設運営
- ・構想策定にあたっては、市民からのニーズを把握するため、アンケート調査や障害児団体に対するヒアリング等を実施した。

○誰もが利用できる「インクルーシブ」な施設

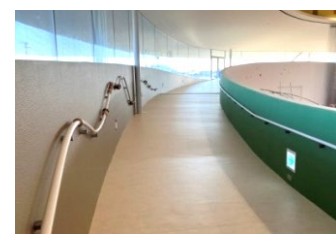
- PFI方式による民間の発想とノウハウを活用
- ・基本構想として、**建物と遊具の一体化、創作活動や五感を刺激することができる施設のほかに、障害の有無に拘わらず全ての子どもが利用できる施設を実現するため、PFI事業を採用。**
- 異なる背景・特性をお互い認め合い、共に生きる
- ・性別や年齢、人種・国籍の違い、障害の有無、家庭環境など異なる背景や特性を持つ人々がお互い認め合い、共に生きるという「インクルーシブ」の考え方を採用。



(出典) 施設ホームページパンフレット

○子ども達の感性を刺激し、多彩な遊びを触発する空間

- 周囲の自然と屋内が一体となった空間設計
- ・窓を広くし建物を壁で仕切らず、スロープで内部を回遊できる構造とすることで、**屋外とも一体となったのびやかな遊びと学びの場を実現。**
- ・広大な窓からは蔵王連峰を一望することができ、**自然との一体感が感じられる。**
- バリアフリー設備も遊びや学びのきっかけに
- ・施設を回遊できるスロープや曲線を描く手すりなど、**インクルーシブな視点から必要となる設備も新しい遊びや学びのきっかけとなるデザインを採用。**
- 自然のなかで感性が刺激されるデザイン
- ・地元産木材を多用し、室内でも自然の中にいる感覚となり、**子ども達の感性を刺激。**



○気軽に楽しく来館できる雰囲気づくり

- デジタル技術の活用など様々工夫
- ・子ども達の異なるバックグラウンドを意識させることなく、**気軽に利用してもらえよう取組を実施。**
- アテンダント養成によるサービス向上
- ・施設の使い方や遊びのすばらしさを子ども達に伝えながら、来館者を見守り・サポートをしていただく**アテンダントを養成し、施設管理者と共に持続的な運営を実現。**



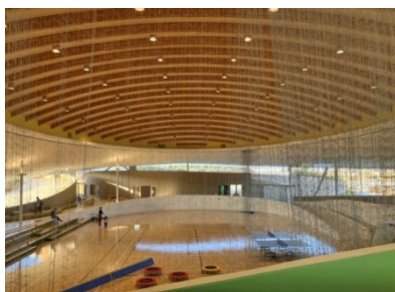
デジタルアトラクション 触覚を楽しむ絵本も設置



たいいくかん
・大型遊戯場

➢ 山形産の木材をふんだんに使用し、子どもの年齢、性別に問わず思いのままに遊べ、多様でチャレンジングな遊びを誘発

自然を感じられる環境で遊ばせることのできる施設が少ない。



木材を多用した丸みを帯びたデザイン。自然の中にいる感覚で、子ども達の感性を刺激する。

車いす利用の子どもなど様々な属性の子ども同士が、一緒に遊ぶ環境が少ない。



体育館床面にガラスコーティングを施工。床面の保護と同時に手入れもしやすい。

安全性を確保しつつ子ども達をのびのび遊ばせることのできる施設が少ない。



屋内大型滑り台上部の安全対策は、わずかな段差とつかまり棒だけ。車椅子の安全に配慮しつつ、のびのび遊べる空間を実現。

屋内では子ども達が自ら工夫して遊びを考えられる環境を提供しづらい



エントランスから運動場への階段は段差を変えて遊びにも使える設計。段差が高い部分は椅子にもなり、子どもの成長段階に応じた柔軟な用途になる。

雪の多い冬の期間は、屋外でのびのびと遊ぶことができない



壁を極力なくし、建物内を一体の空間とし、館内通路はすべて駆け足OK。オープンから半年間、衝突事故はゼロ。

■体育館の利用について

・体育館利用については、時間を区切り、様々な利用者に使用してもらっている工夫を行っている。

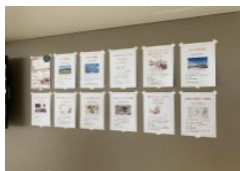
9:00 18:00	保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、特別支援学校など、子育て関連事業者、子育て支援団体（育児サークル、読み聞かせやおはなしクラブなど）
18:00 22:00	一般市民団体（町内会、子供会、スポーツ少年団、クラブ活動団体など）

※高校生以下の方が半数を超える団体の場合、減免申請により2分の1へ
※障害者がおおむね半数を超える団体の場合、使用料免除

館内での取組

➢ 施設の魅力を高めるための様々なソフトな取組やサービスの展開

誰もが気軽に参加できるイベントが少なく、施設を利用する機会がない。



施設主催イベントのほか、企業や個人のボランティアが行う約30の市民ワークショップが開催（ベビーマッサージ教室、産後の骨盤ケア教室、アロマクラフト体験など…）。



健常者と車いす利用児と一緒に、地域の伝統祭り（花笠音頭）のWSを行い、様々な属性の子ども達へ地域文化の継承。

えいぞうとおとの
へや

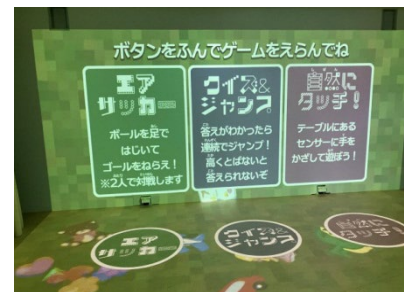
➢ 多目的な利用もでき、楽しく身体を動かすことができる空間

利用者の中には、カームダウンを必要とする子どもがいる。



子どもの気持ちを落ち着かせることができるよう、多目的室や子育て相談コーナーにリラックス効果のある発光アイテム（スヌーズレン）配置。

誰でも楽しみながら身体を動かすことのできるコンテンツが少ない。



デジタルリハビリテーションを設置。ももとは重度障害を持つ子どものリハビリに開発されたものだが、誰でも楽しめるアトラクションとして利用。

その他付帯施設

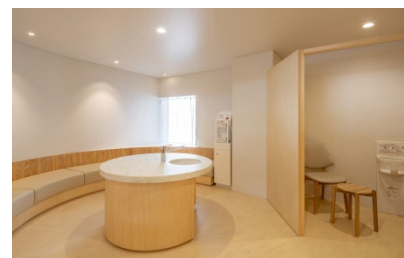
➢ 隔々まで利用者に配慮することによって施設の魅力向上

身体を動かすばかりでなく、落ち着いて本を読んだりしたいという子どものための場所がない。



エントランスホール横に図書コーナー、読み聞かせコーナー、畳スペースを設置。

女性だけでなく、男性も授乳室を利用したい場合もあるが、女性専用の部屋は利用することができない。



赤ちゃん休憩室（授乳室）は共用スペースのほかに、母親のプライバシーを確保する個室の授乳ブースを2ヶ所用意。

みんなのトイレ

子どものトイレに付き添う際、性別が異なる親が同伴することは、周りからの目が気になる。



女兒を連れて父親や性差に配慮するため、「みんなのトイレ」という名称にする。屋外で汚れた子どものため、シャワー完備。

保護者が休める居場所や地域住民との交流の場が少ない。



施設に設けられたカフェスペースは、地元産の食材を用いた「食育カフェ」として営業。離乳食や嚙下食も販売している。

利用者現状

利用
人数

[目標年間利用者人数]
15万2千人

[2022年4/18~11/10利用者数]
(~10/8までコロナ禍により山形市民のみに利用制限)
月間約9000人

[2022年10月利用者数]
(10/8~居住地域の利用制限を解除)
月間約1万3400人
(年間ベース約15万人)

効果

- ・PFI方式を採用し、民間事業者のノウハウを活かすことができ、かつ入札後のVFMが約7%と算定されるなど、大幅な費用の節約にもつながった。
- ・オープンから半年間で、建築関係、学校関係、自治体を中心に約300組が視察に訪れており、全国から高い関心を集める施設となった。

<受賞> 日本ウッドデザイン賞2022優秀賞
林野庁長官賞(日本ウッドデザイン協会)
2022年度グッドデザイン賞「グッドデザイン・ベスト100」等

利用者
Voice



- ・赤ちゃん休憩室を利用したことで、同じ乳幼児を持つ親御さんと交流が持てるようになった。
- ・色々なワークショップがあるので、自分も特技を活かしてボランティアとしてそこに参加したいと思った！
- ・設備がユニークで子どもが楽しく遊べる。また利用したい！

